木造『獅子頭』修復報告書

平成 30 年 7 月 26 日

巧匠堂

木造『獅子頭』修復報告書

2018 年 7 月 26 日

委　　託　　者　：　赤井正人
作　　　　者　：　不明
修 復 責 任 者　：　吉水快聞
施　　工　　者　：　吉水快聞　鈴木冬覺　畑景子
修　復　期　間　：　平成 30 年 1 月 19 日～平成 30 年 7 月 26 日
目　　　　的　：　神楽で使用可能な状態に修復すること
内　　　　容　：　割れた顎の接合、その他欠失部分の充填・補彩、
　　上顎連結部分の補強、舌の蝶番の取り換えなど

【保存状態】

所有者の話によると、この獅子頭は数十年前に愛知県で購入したものらしく、比較的新しいものである。そのため全体的に木地及び漆（カシュー塗料か？）の状態は堅牢である。しかし、神楽で使用するときに負荷がかかる上顎の連結部分が割れているため現状では使用できない状態にある。また、ところどころぶつけたりしたためか、欠失箇所がみられる。

【修理方針】

◇顎の接合、割れに伴う隙間の充填及び補彩
◇その他欠失部分の充填、及び古色付け
◇上顎付け根部分の補強
◇舌と下顎を連結している蝶番が破損しているため取り換え

修復前写真（正面）

修復前写真（右側面）

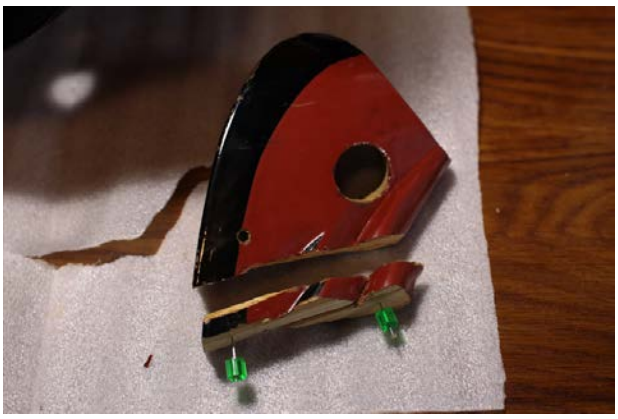
修復前写真（左側面）

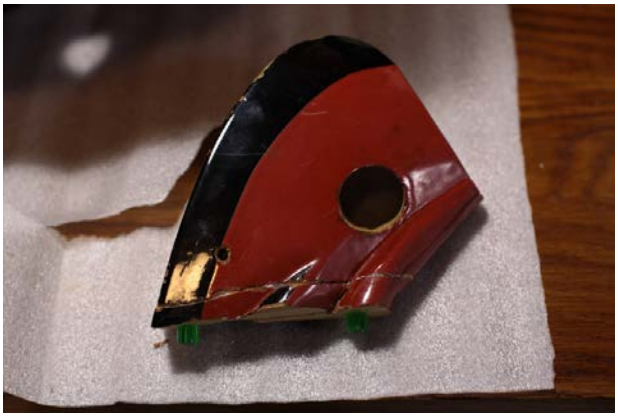
【両顎付け根の割れ部分】

①　解体、接着剤の除去及び接合など

修復前の左上顎付け根の割れた部分は、接着剤で修復された痕跡があるが、別の部分からも割れが入り、遊離していたため、解体し、古い接着剤の除去を行い、再接合する。

修復前の右上顎付け根は、以前に修復されたとみられる接着剤が強力で、無理に外そうとすると他の部分が割れてしまう可能性が高いため、はみ出した接着剤の除去のみを行う。





（１）左顎付け根の割れた部分を解体し、酢酸ビニル樹脂にてそれぞれの破片を接着する。

（２）かなり細かく割れてしまっており、接着剤だけでは強度が足りそうにないため真鍮のダボを二本入れて接合する。

②　接合した割れ目部分の隙間充填及び補彩

（1）隙間に木屎漆（漆＋小麦粉＋木屑）を充填する。

(2)木屎漆が固まったあと、形状に合わせて削る。

(3)錆漆(漆＋水＋砥の粉)を付けて表面を整える。

（4）黒漆（呂色漆）と色調を合わせた色漆を塗って仕上げる。

③割れていた上顎の連結部分の付け根はかなり薄く彫られており、強度に問題がありそうなので、漆で布貼りをし補強

（1）麦漆（漆＋小麦粉）を塗る。

（2）麻布を貼っていく。

（3）１枚目の布貼りの漆が固まったあと、錆漆を付けて表面を整え、布貼りを繰り返し、計３枚布を貼り重ねて補強する。

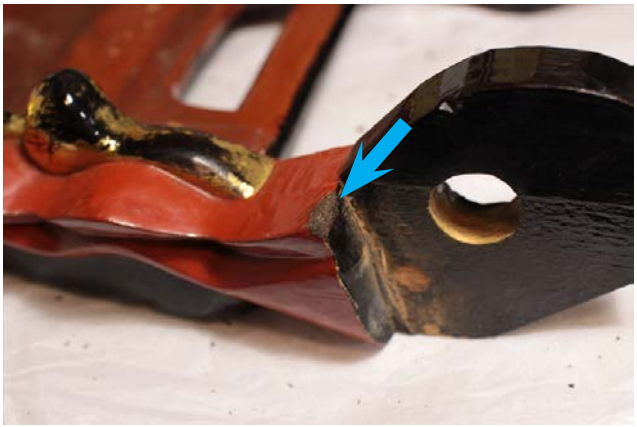
（3）３枚布を貼ったのち、錆漆で表面を整え、研いだあとに色漆を塗り、目立たないよう仕上げる。

修復後

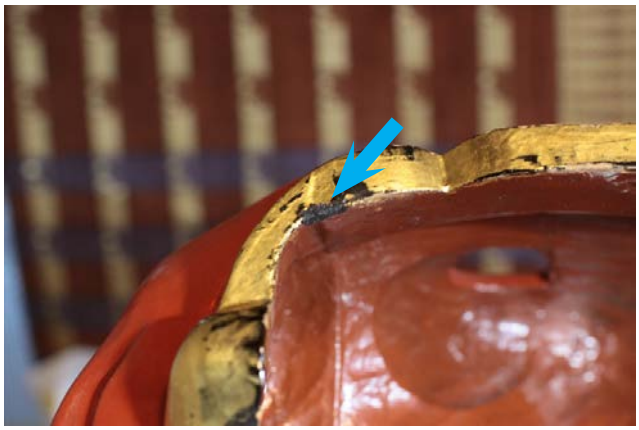
【その他欠失部分】

欠失部分の充填及び補彩

下顎の左前歯



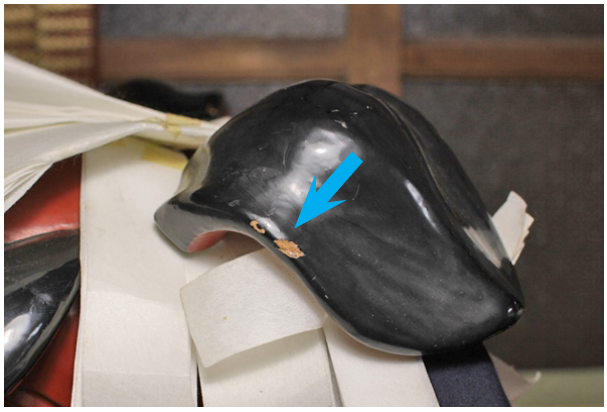
下顎の左付け根部分



上顎の右前歯

下顎右奥歯

（1）目立つ欠失部分については「木屎漆充填→硬化後削る→錆漆」を施し、形を整える。
（※上記写真の場所以外にも数ヵ所あり）



修復前

修復後

（2）錆漆を研いでから漆を塗って仕上げる。周りと調和がとれない部分については、アクリル絵の具で色調を合わせ目立たないようにする。

【舌と下顎を連結している蝶番】

下顎と舌を連結している蝶番が破損していたため、交換

（1）蝶番の軸が亡失して外れているため、舌は両面テープで固定してあった。

破損した真鍮製 蝶番

ステンレス製 蝶番に交換

（2）元々の蝶番は真鍮製のもの 1 個で連結してあったようだが、強度が足りなくて破損したと考えられるので、ステンレス製の蝶番を 2 個に増やし連結する。

修復後

修復後写真（正面）

修復後写真（右側面）

修復後写真（左側面）